



高知市立学校教職員研修で行った研修のうち、「授業づくり」「学級経営」「校内研修」等の内容をお知らせするために「研修便り」を発行いたします。

## 「授業づくりの充実に向けて」 〈小学校〉とくに低学年を中心として

高知市立小中学校3年経験者研修(教諭)  
平成24年5月8日(火)実施

### 池知スーパーバイザー 学力向上の鍵は、コミュニケーション能力にある

#### 「教える授業」の問題点

- ・子ども同士のコミュニケーションが成立していない
- ・練り上げや一般化の過程が欠落することや安易に一般化してしまうことがある
- ・「学習の詰め」がついているように見えてついていない
- ・子どもに「思考(説明)言語」を獲得させる機会が少なくなり、十歳の壁を越えさせられない

※子ども同士のコミュニケーションがない限り、  
全部教える授業である



教材を用いた池知スーパーバイザーの講義

#### 学級経営のポイント

##### ☆ 学級を見直す3つのポイント

- 私語はないですか？
- 教室は汚くないですか？  
机は整列していますか？  
きれいな黒板に板書していますか？
- 雑巾は雑巾かけに整頓してかけられていますか？  
ろうかにちりは落ちてないですか？  
トイレのスリッパはそろっていますか？

##### ☆ 子どもの集中状態の確認

- 上履きを履いていますか？
- 机が整頓されていますか？
- 背筋が伸びていますか？

### 互いに学び合う授業！ コミュニケーション能力を高める授業

#### ポイント1: 思考(説明)言語の獲得

- ・思考言語には、順序性や時系列、論理性が含まれる。
- ・日常生活では、思考言語を使う機会は極端に少なく、思考言語が獲得できるかどうかで、論理性・思考力の面で数年の発達差を生じさせる。
- ・思考言語の獲得のためには、一人ひとりに道具を持たせ、操作活動をさせた後に、相互説明の場を設定し、操作をしながら説明し合うことを繰り返し、操作の抵抗や言語化への抵抗を取り除いていく必要がある。

#### ポイント2 練り上げの活性化

- ・説明者が使った算数用語や評価のポイントを数えさせるなど、聞き手を主役にする手だてを打つ。
- ・他の人の考えと自分の考えを比較させ、どの考えと自分の考えは似ているのか、考えの自己表現(自己決定の場)を持たせることで聞き手に緊張感を与える。
- ・一般化を急がず、「よさ」に気づかせることで、有能な考え方に収束させていく視点を仕込んでおく。

**教える授業**  
(学習の詰めがつかない)

互いの学び合い  
コミュニケーション

**子どもが活動する授業**  
(「確かな学力」の保障)

### ※子どもの目から隣の落ちる授業をめざして挑戦を！

#### 〈受講者の感想〉

- ・授業において、学力のカギはコミュニケーション力にある。だから、学力向上のためには子ども同士の関わり合いがある「活動する授業づくり」をめざしていかなければならないと感じた。
- ・「聞き手」を主役にするというお話も大変勉強になった。ただ「聞きなさい。」と指導するのではなく、子どもたち自らが聞きたい、聞こう、聞かなきゃ困ると感じるような手立てを打たなければならないのである。
- ・授業改善だけでなく、環境整備の大切さも学ぶことができた。ろうかや教室が気持ちよい場所でないとう学習にも落ち着いて取り組めないことを改めて感じた。



真剣な受講者

## <中学校>

### 濱田スーパーバイザー 「分からなさ」が大切にされる授業に

#### 高知市の中学生の実態

- ・どの教科も学年を追うにつれ、分からなくなっている。
- ・学力の2極化が起こっている。
- ・分からない生徒がそのままになっている。

#### なぜそうなってしまうのか？

これまでの小学校で培ってきた学習集団が崩れ、子どもの「学び合い」が少なくなる。

中学校で知識伝達型の授業が多くなった場合、学習意欲が減退する。（「学び」からの逃避）



講師の濱田スーパーバイザーと受講者

### 子ども主体の授業に！ 深く学ぶ授業づくりのポイント

#### ポイント1: 授業は子どもの思考(情意)の流れで構成する

##### ① 課題設定

課題解決を図っていくとき、子どもの意識(思考)の流れが生じる課題性があるか。

##### ② 課題解決 [自力解決→話し合い解決(グループ・全体・ペア等)→一般化]

子どもの意識(思考)の流れを生む手立てが適切に打たれているか。

##### ③ 「考え方」を発展・深化

課題解決の中で得られた考え方に焦点が当たり、発展・深化が図られているか。

##### ④ 振り返り

自分の学びを振り返り、自己評価を行っているか。

#### ポイント2: 課題から問題意識が生まれ、それを解決していく手法へと自然につながるように設定する

##### ① 本時のねらいを達成させ得るもの。

② 「あれ、おかしいぞ!」「えー、どうして?」と不思議さや驚き等、関心・意欲がわく要素を含んでいること。

③ 日常生活や社会現象、自然現象に結びつく身近な素材。

④ 資料を分析したり整理したりしていく中で解決できるもの。

⑤ 既習事項との対比から、問題点を整理し、その問題点を解決する学習へと発展するような課題設定が望ましい。



× 「できた人?」「分かった?」

#### <受講者の感想>

・教師主導の授業ではなく、生徒が主体的に活動ができる授業を目指さなければならないと感じた。「分かりましたか。」と聞いて終えるのではなく、分からないことを素直に「分からない」と言えたり、質問したりできる雰囲気を作ることが大切だと思った。

・教科の特性も活かして、すべての子どもが、多くの他者と学び合う場を設定し、自分の考えを伝え合えるような授業を目指したい。